

## 2024 年度 石狩西部広域水道企業団地球温暖化対策実行計画の進捗状況

### 1 二酸化炭素の排出量の推移

当企業団の事業実施に伴う二酸化炭素（以下、「CO<sub>2</sub>」）排出量の推移は、図 1 のとおりです。

2024 年度の CO<sub>2</sub> 排出量は 810t-CO<sub>2</sub> となり、基準年度に比べ 98t-CO<sub>2</sub> 減少（▲11%）し、中間目標年度の数値を下回りました。（表 1、図 1）

CO<sub>2</sub> 排出量は、「エネルギーごとの CO<sub>2</sub> 排出係数」の積により算出されますが、昨年度から大幅に上昇した主な要因は、CO<sub>2</sub> 排出量 90%以上を占める電気において、電力会社の CO<sub>2</sub> 排出係数が大幅に増加したためです。

表 1 中間目標と取組実績

実行計画			区分	2024 年度実績
基準年度（2014 年度）CO <sub>2</sub> 排出量（A）		908	CO <sub>2</sub> 排出量（B）	<b>810</b>
中間目標年度（2024 年度）CO <sub>2</sub> 排出量（C）		829	削減量（A-B）	98
削減目標	削減量（A-C）	79	削減率（（A-B）／A）	<b>11%</b>
	削減率（（A-C）／A）	9%		

※「排出量」は、CO<sub>2</sub>排出量を指し、単位は t-CO<sub>2</sub>。

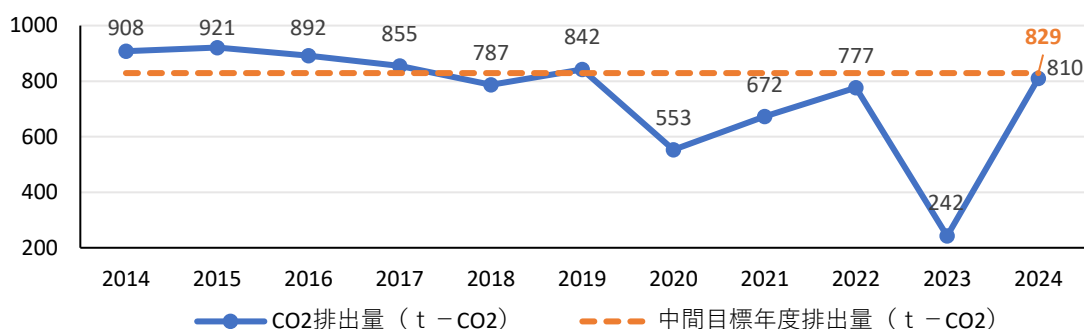


図 1. 二酸化炭素排出量の推移

### 2 エネルギー種別の CO<sub>2</sub> 排出量の割合

エネルギー種別の二酸化炭素排出量は図 2 のとおりであり、94.1%が電気利用により生じておりました。

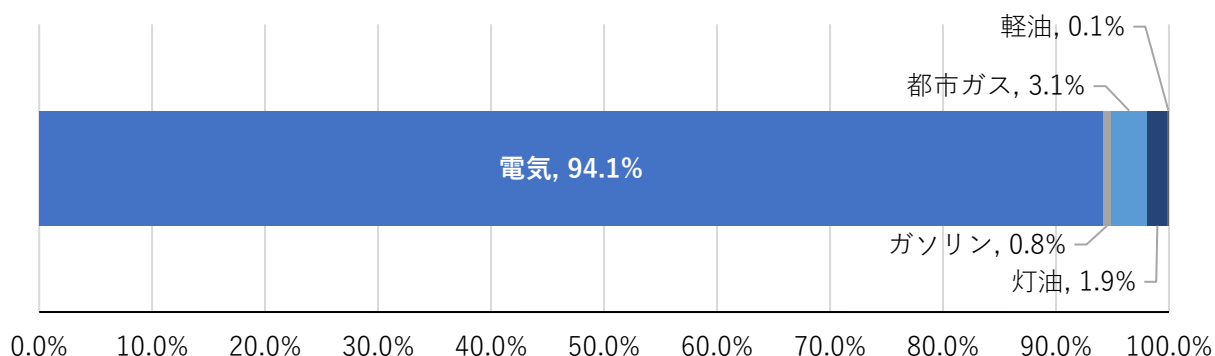


図 2 エネルギー種別の CO<sub>2</sub> 排出割合

### 3 電気使用量の推移

当企業団の水道施設における電気使用量は、表2のとおりです。

2024年度の電気使用量は、2023年度と比較して1.1倍の増加となりました。増加した要因は、札幌市への通水にともなう試運転作業を当別浄水場で実施したためです。

表2 電気使用量の推移 (単位：kWh)

年度	2023	2024	増減	増減率
水道施設				
当別浄水場（高圧）	798,282	951,349	153,067	119.2%
当別分水施設（高圧）	436,947	445,303	8,356	101.9%
花川分水施設（低圧+従量電灯）	13,181	12,836	-345	97.4%
新港分水施設（低圧+従量電灯）	14,163	14,541	378	102.7%
小樽分水施設（低圧+従量電灯）	15,366	13,403	-1,963	87.2%
当別管理上屋（低圧+従量電灯）	2,510	1,948	-562	77.6%
札幌管理上屋（低圧+従量電灯）	734	730	-4	99.5%
No.5 緊急遮断弁（低圧+従量電灯）	2,820	2,749	-71	97.5%
水道施設計（A）	1,284,003	1,442,859	158,856	112.4%
八軒事務所（B）	39,025	34,001	-5,024	87.1%
総計（A+B）	1,323,029	1,476,860	153,831	111.6%

### 4 実行計画に基づく主な取組

#### ○電気使用量の削減

- ・ 浄水施設及び分水施設に係る運転管理の効率化及び適正化に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。
- ・ 不必要な照明の消灯や、パソコン・コピー機の省電力機能の有効活用等の節電に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。

#### ○ガソリン使用量の削減

- ・ 効率的な公用車の使用や、エコドライブを実践しました。

#### ○灯油・ガス使用量の削減

- ・ ナチュラル・ビズ・スタイルを推進しました。

### 5 今後の取組

2025年度以降、札幌市への通水に伴い、2系浄水処理施設及び札幌ポンプ場・分水施設が稼働し、電気使用量の大幅な増加が見込まれるため、2025年度を新たな基準年度とし、2030年度までに基準年度から5%削減することを目標としております。

企業団としては、CO<sub>2</sub>排出割合の9割以上を占める、「電気」のCO<sub>2</sub>排出量を削減するための方策を検討します。